



資母っ子

12号 R2.9.19

校訓『強く 正しく 美しく』

校是『ほんものはつづく つづけるとほんものになる』

学校教育目標『いのち輝く ほんものの人づくり』

コロナ対策 教室に換気扇！

8月末から9月にかけて、教室に換気扇が設置されました。コロナ感染対策として換気をして、空気の入れ替えをしていきます。

8月末から9月上旬の酷暑の中、子どもたちは、頑張って学習に励んでいました。

◇2年生 ランチタイム指導 よくかんで食べよう 玄さんメニュー

9月1日（火）出石給食センターの小森栄養教諭から、よくかんで食べると、体にいいことが一杯あります。「はいげんさん ガッツのひみつ」として説明していただきました。

- は…発音がはっきり
- い…胃腸が丈夫に
- げん…元気になる
- が…頑張れる
- つ…つばがよく出てがん予防
- の…脳のはたらきアップ
- ひ…肥満防止
- み…味覚がよくなる
- つ…強いあご



◇今年度初めてのHSP（小学校6年生の中学校体験）実施

9月3日（木）・4（金）と但東町内の3小学校が中学校で学習をしました。



3日の3校時、修学旅行に向けて、個々に目的について考え、それを発表して修学旅行の目的を確認していました。そして、グループになりリーダーを決めて、個人目標と班の目標を決めていました。3日は初日で、少し緊張しているようにも見えました。



4日の6校時の算数の授業では、面積をどのように求めていくか、自分でめあてを持ち学習していました。なぜ、そのような計算になるのかペアで説明し合っていました。他の学校の児童との会話が増えているように思いました。

◇3・5年生 稲刈り体験



稲刈りを9月17日（木）の8時35分より実施しました。3・5年生の12名に加えて、平日にも関わらず保護者・地域の方が6名参加してくださいました。「あした」の霜倉社長にカマの持ち方（特に親指と小指に力を入れること）や腰の位置、そして、手で刈ろうとせずに、体（腰）を使うことが大事なことを教えていただきました。最初は慣れない手つきで稲を刈っていましたが、慣れてくると、それなりにさまになってきました。休憩時間を惜しんで「もっと刈りたい」と言っている児童が多く、稲刈りを楽しんでいるようでした。田んぼの5分の2くらいを手で刈りました。残りは機械で刈っていただくことになりました。



束ねた稲を稲木に掛けるために運んで、保護者の方や霜倉さんに手渡していました。最後に落ちている稲穂を拾い集めていました。少ない人数でしたが、みんな一生懸命に取り組んでいました。



◇6年生 平和学習

9月17日（木）高橋地区の山下幸雄様を招いて、満州開拓団の話をお聞きました。

実際に体験されたことであり、児童は真剣にメモを取りながら聞いていました。戦争と平和について考える機会を持つことができました。今度は、修学旅行で広島へ行って、原爆のことを通して戦争と平和について考えてくれると思います。

児童のメモからの抜粋です。

「小学校3年生の時に太平洋戦争で状況が一変した。物が無い暮らし、欲しがりません勝つまでは。教科書は親戚などからもらう。習字は半紙に書くのではなく新聞紙が黒くなるまで書いた。半紙一枚で青書した。

満州でつくった米などを日本に送るために、昭和19年3月、小学校5年生の時無理やり満州に連れていかれた。豚小屋みたいな所に住んでいた。電気・ガス・水道なし。土の上に敷物を敷いて暮らした。

昭和20年8月9日ソ連軍が攻めてくる。8月13日の夜、2、3日の食料を持って逃げろの命令。8月15日、日本は戦争に負けたと宣言した。逃げ場がない、ここには危ない。昼は危ないので夜に出ていった。逃げるのに子どもが泣くと見つかるので、泣く子は殺せと言われつづけた。3歳になる弟と8歳になる妹がいた。8歳の妹は泣かないが、3歳の弟は泣く。短刀で父が殺すと言った。最後なので弟をよく見とけと言ったのでみんなで顔を覗いた。弟は何かくれるのかと思って笑った。すると母がこの子を殺すなら私も殺せと言った。もう泣かせないから。それから弟は泣かなくなった。

17日、今までいた場所（開拓地）に逃げ帰った。でも、その村長に悪いけどこれ以上おいておくわけにはいかない、出っ行ってくれと言われた。

日本は負けだし、家族で話し、死ぬしかないと決めた。兄と背中合わせにくぐられ「天皇陛下バンザイ」と叫び…父が川に落とした。一瞬、親が妹・弟を背負っているのが見えた。これが別れの最後の姿だった。しかし、死ななくてごろごろと川の中を転がった。意識が戻った時は、兄は死んでしまっていて、うめてあげた。生きたいと体が言うので、親を探した。大きな声で叫んで、喉が枯れた。298名がなくなり、47名が生き残った。もう少し遅かったらみんな亡くなっていた。」

両親と兄弟3人が自決して孤児となった山下さんは、収容所に送られた後、帰国をされました。終戦から3年がたっていました。

